

講 演

會長就任挨拶

會長 篠原 登

(昭和24年5月14日 於第23回通常總會)

今回多數會員の皆様方の御推舉によりまして、固らずも名譽ある本學會會長の職を汚すことになりましたことは、私の身に餘る光榮でございます。何しろ文字通り淺學非才の若輩でありますので、この一年間満足に勤められるかどうかとも、非常に懸念して居りますが、幸に會員の皆様や役員や事務所の方々の御援助御協力によりまして、最善の努力を致したいと願って居る次第でございます。何卒偏に御鞭撻の程を御願ひ申し上げます。

本學會が設立せられましてから31年餘になります。その間歴代の會長や役員の方々の本學會に對する御功績は、まことに絶大なものがあり、わが國電氣通信技術や事業に大きな貢獻を御殘しになりました。さらに戰爭末期から終戦後の混亂期におきましては、本學會の再建のため御盡力下さいました。私はこれ等の先輩各位に對しまして、深甚なる感謝の意を表する次第であります。

さて、わが國で始めて電信の試験的實施を行いましてから83年、始めて電話の交換事務を開きましてから59年、無線電信の研究に成功しましてから52年になりますが、現在に至るまでわが國における電氣通信事業の發達は、まことに遅々たるものであります。もとよりその責任の半分はわれわれが負わなければならないものであり、一面わが國の經濟力の劣勢にも理由を求めることができましようが、他面わが經濟界、政界、一般大衆などの電氣通信に對する認識が極めて不徹底であつたということに、大きな原因を認めないわけにはいかないのであります。

居ながらにして意思の交換を可能ならしめるという、空間の制約からの解放、電磁波の速度に近いスピードで意思を伝え得るという、時間の制約からの解放。この二つの特長のため、電氣通信のもつ文化的使命は甚だ重いとわなければならないと思います。しかしながら、現在ではかゝらない電話とかおそい電報という、まことに有難くもない評判を戴いて居りまし

て、これに對し相當の改善の跡は認めますが、逓信省にずつと職を奉じて來ました私と致しましては、實に申譯なく思つて居る次第でございます。この悪評を一日も早くなくすためには、通信事業をあくまで逓信省の一層の努力を必要とする一方、本學會の強力な技術面の裏付けがあつて、始めてその目的を達することができるのでありまして、今後の活躍が望ましいと存じます。ことに進歩の早い通信技術におきましては、事業に對する學會の役割は極めて重要でございます。よく例にひかれることでありますが、アメリカの電話機數の3,000萬に對し日本は100萬、アメリカでは4人に1個の電話機を有するのに比較して、日本では70人に1個の電話機しか持つて居らないのであります。これは比較すること自體が無理とは存じますが、日本の一般大衆の通信に對する認識の向上と、われわれの熱意と努力とによつて、これに一步でも近づきたいと存じます。通信が今少し國民の生活その物に、經濟や生産その物に、ピッタリと喰ひ入つて、その大きな一要素となることが必要かと存じます。

本學會は、通信の各分野における技術者を網羅して居る國體であることはいうまでもありませんが、通信の教育も、通信の研究も、通信の製造工業も、通信事業の經營も、つまるところ、國民大衆により多くの通信の利便を提供するためのサービス以外に、その目的はないと思います。そして本學會の使命は、それを裏面から技術的に支援し助長するため以外の何物でもないことは明かであります。そして本學會の經營目標は、通信技術向上のため、最大多數の會員が最大利益を得るにあると存じます。そのような面から、雜誌の編集も、講演會の開催も、圖書の刊行も、その他の事業も企畫されなければならないことは、いうまでもないところであります。非常に獨創的な貴重な論文も必要であると同時に、極めて地味な研究の發表も亦必要でありまして、できるだけ多數の會員に廣く貢獻するという考え方が望ましいと存じます。

つぎに、技術が高度に進歩するにつれて、だんだん細分され専門化されてゆくことは、當然のことです。しかしながら、専門化が細分されればされる程、一方では総合化が強調されなければならないと思います。卑近な例で恐縮ですが、われわれの分野でも唯電気通信の知識ばかりでなく、精密機械學、機械工作學、應用化學、材料學、土木工學等についてある程度の知識を必要とするのは當然でございます。もつと掘り下げますと、さらに深い廣い意味で、専門化の総合性ということの必要性が重要になつて参ります。一般的に考へて、一つの専門知識に對し深い造詣をもつと同時に、しかも他の分野に互つて廣い見識をもつ人物が要求されることと存じます。私は以前から冗談話にこのような人物に勝手に名前をつけましてT型の人物と呼ぶことにして居りました。

政治家や法律家はやゝもするとTの横線が長くなる怖れがあり、技術家はやゝもすると縦線が長くなり勝ちであります。そこでT型の横と縦の調和が問題となつて來るのであります。別の例を考へると、戰爭中は日本の優秀性のみを主張する縦線の長い人物が多く出ましたが、戦後はこれに反し深味のない物識り顔の横線の長い人物が珍重されるようになりました。こゝでも日本獨得のいゝ點はこれを認め、例えば通信の研究についても日本における優秀な研究は、これを充分尊重しこれを助長すると共に、廣く世界の動向についても正しい見解をもつ、識見の高い人物がたくさん出なければならぬのでありまして、調和のとれたT型の人物が、眞の日本再建のために要求されて居ると存じます。

さて敗戦後の日本は眞に茨の道を歩まなければならなくなりました。敗戦という大きな傷口はまだまだ到

底癒やされては居りません。戦災で無一物となり加ふるにインフレの波に脅かされ、私共の生活は一向樂になりません。日本經濟は復興どころか困難は倍加し、ある會社はつづれ失業者は増加しつゝあります。こゝに一體希望があるでありますか。さらに敗戦後の困難は物質的の面もさることながら、精神的の面においても同様でありましょう。私はまず精神の復興と獨立こそ、物質の復興の裏付けとなるものと信じます。敗戦の悲惨は當分續き、暗黒はますます増大するかも知れませんが、しかし私は希望の光を失いたくありません。夜が更ければ更ける程、曉は近いのであります。日本はいま茨の道を歩んでは居りますが、もし正義と眞理とををしたい求める大なる勇氣と、謙虚な心持が日本にあるならば、必ず曉は來るものと確信せざるを得ないのであります。古の詩人は苦難の時高らかに歌いました。「夜は夜もすがら泣き悲しむとも朝にはよるこび歌はん」と。このよるこびの朝を一日も早く迎へることができましよう、皆様と共に努力し、通信の文化的使命に向つて進みたいと私は念願して居る次第でございます。

以上判りきつた、しかも抽象的なことばかり申し上げまして、汗顔の至りでございます。いづれ本學會の具體的な一年間の事業につきましましては、有能な多士濟々たる前役員、現役員の皆様の御意見を伺ひまして、計畫致したいと存じます。なお本學會はいうまでもなく會員の皆様の會でございますから、御氣付きの點は何でもどしどし御申出で下さつて、御指導御協力いただきますことを、特に御願ひ申し上げたいと存じます。皆様方の御援助を重ねて衷心より切望致しまして、私の挨拶を終りたいと存じます。御清聴に對しまして感謝申し上げます。